

二月十九日に、左大臣橘家の宴に、攀ち折れ
る柳の条を見る歌一首

四二八九番

青柳の ぼつ枝攀ち取り かづらくは 君がやど
にし 千年寿くとそ

二十三日に、興に依りて作る歌二首

四二九〇番

春の野に 霞たなびき うら悲し この夕影に
うぐひす鳴くも

四二九一番

我がやどの いささ群竹 吹く風の 音のかそけ
き この夕かも

二十五日に作る歌一首

四二九二番

うらうらに 照れる春日に ひばり上がり
心悲しも ひとりし思へば